

HOT NEWS

雲仙復興事務所

平成24年5月28日

第5回ジオパーク国際ユネスコ会議 島原半島で開催

発信元

雲仙復興事務所
調査・品質確保課 峰松 知裕

第5回ジオパーク国際ユネスコ会議が島原半島において開催されました。今回が日本で初めての開催でした。

5月12日～15日の4日間で行われ、約30の国・地域から地球科学や環境保全の専門家らが参加。世界各国の貴重な地質や地形を持つジオパークの景観保全や活用策などを話し合い、情報発信、情報交換することで、ジオパーク相互の質を高め、いく事を目的に行われました。

開会式では九州地方整備局植田河川部長、本省砂防計画課越智課長補佐が来賓として出席されました。

《メイン会場入り口付近の様子》



《開会式》



メイン会場である島原復興アリーナにおいては、ジオパークフェアが開催され、世界各地のジオパークが行っている様々な活動を個別のブースで展示、紹介していました。当事務所からも事業内容について広く知って頂くために、こちらのフェアにて事業紹介を行いました。

《ジオパークフェアの様子》



《ブースでの事業説明》



《職員による事業説明》



《火砕流により焼失した車》



14日には、巡検が行われ、国内外のジオパーク参加者約340人が島原半島内を視察しました。普賢岳噴火当時、火砕流を真正面から撮影できることから多くの関係者が集まっていた場所である砂防指定地内の『定点』も視察し、火砕流で焼失した車などを目の当たりにすることで、災害の恐怖を改めて感じて頂けたようです。定点では、当事務所職員による砂防事業についての説明も行いました。また、柿の木坂では、火砕流で一部焼失しながらも再生を果たした柿の木の見学も行われました。

《再生した柿の木を見学する参加者》



最終日に行われた市民フォーラム「ジオパークと防災」では、全国火山系博物館連絡協議会長の伊藤和明氏をコーディネーターに迎え、萬徳事務所長、内閣府政策統括官付参事官の藤山秀章氏など5名のパネリストによる話題提供がなされました。

フォーラムの中で、新燃岳・有珠山・普賢岳などの火山災害の話題があがり、ジオパークを防災教育のツールとして観光と防災の両面から地域防災に取り組むことが大切であるとされました。

《パネリストの萬徳事務所長》

